

# 小豆沢病院家庭医後期研修プログラム「あずさわ」

2010年1月4日

## はじめに

50年以上にわたり地域の第一線病院として医療活動を行ってきた当院は、地域の方々に支えられ、これまで都内最小の臨床研修指定病院として、新卒医師を受け入れ、育ててきました。また、医療法人健康文化会としては、板橋区だけでなく練馬区・北区に広がる7つの医科診療所、1つの歯科診療所、4つの訪問看護ステーションと1つ老健施設を持ち、系列法人の居宅介護支援事業所、ヘルパー事業所、薬局と共に、「切れ目のない医療・介護」を実践してきた歴史があります。

現在、都市部の高齢化は急速に進んでおり、当地域も例外ではありません。団塊の世代が75才以上となる2025年には高齢化率が現在の20%から30%を越え、年間の死亡者数は現在の100万人から160-170万人になると予測されています。当プログラムの教育診療所である小豆沢病院附属高島平診療所が抱える高島平団地では、既に入居者1万7000人の実に6000人近くが高齢者であり、高齢者比率34%とまさに「2025年問題」を先取りした地域となっています。しかし、大学病院など近隣の大規模病院は軒並みDPC病院となり、今まで以上に臓器単位/疾患単位での対応を迫られているのが実状です。その結果「治療が完遂されていない」もしくは「疾患治療の急性期はすぎたが様々な障害・問題が残された」状況で退院してくる、いわゆる『医療・介護難民』がここ1-2年で急増しています。この『医療・介護難民』の急増には、近年進行した格差社会いわゆる「貧困化」の影響も無視できません。こうした医療構造や社会状況の大きな変化の流れの中で、当院の平均入院日数も短縮を余儀なくされ、以前のように「入院中に全ての問題に介入して、在宅調整も十分に行う」といった余裕がなくなっています。

当院では、これまでも「地域の主治医(地域のかかりつけ)機能の確立」を最重要課題として医療および初期研修を行い、そうした医療を志す医師や研修医の受け皿となることを目標としてきました。しかし、「超高齢化社会の到来」「医療・介護難民の急増」という情勢の中、病院や病棟を中心とする医療や研修には限界があること、診療所医療、特に在宅医療を担う人材の育成が急務であり、そのためには診療所をセンターとした家庭医を育てる研修プログラムが必要不可欠であるという認識に至りました。

当プログラムは以上の経緯から生まれました。当プログラムは初期臨床研修を終えた3年目の医師、もしくは3年目以上の既卒医師を対象としています。学会認定の家庭医育成プログラムとして、3年間の研修期間終了時には、在宅医療(往診)に強く、小規模診療所の所長として、後輩医師の教育にも力を発揮できる能力を獲得することを目標としています。

## 私たちが目指す家庭医のイメージとは

中国は7世紀の医方書『千金方』冒頭には「下医は病を治し、中医は人を治し、上医は国を治す」という有名な言葉がありますが、「国」をコミュニティや地域として、その最小単位は家族であると考えた場合、まさに「上医」＝「家庭医」と言えるでしょう。また、図1のように視覚化されたモデルからは、「下医」から「中医」、「上医」へとスキルを積み上げていく研修の道筋も示されます。

このイメージを念頭に置き、「上医」である所の「家庭医」を目指すことを目的に開発・運営されているのが、当後期研修プログラムです。

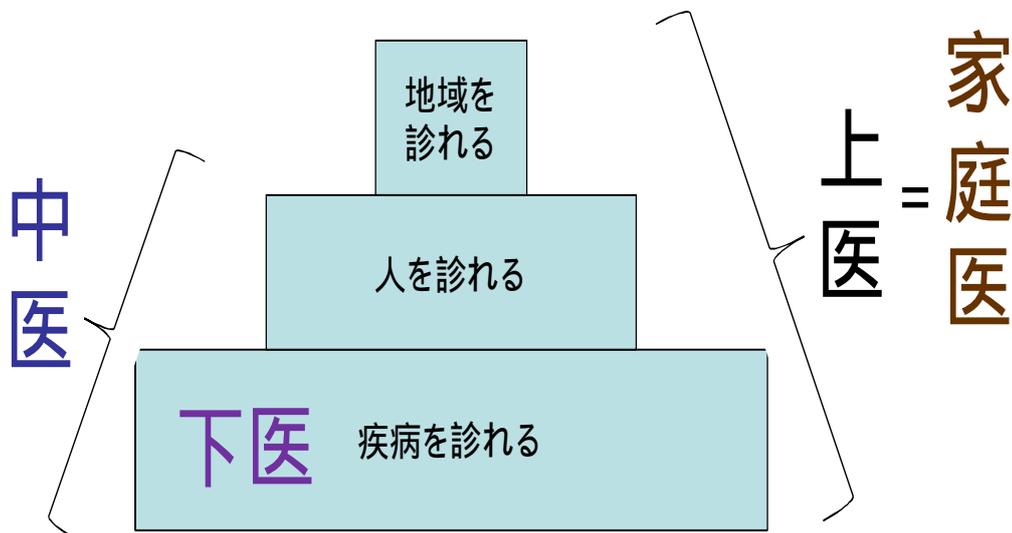


図 1：家庭医のイメージ

## 研修目標

2025 年問題を先取りした超高齢化地域をフィールドとして以下の能力獲得を目標とする。

- 患者中心・家族志向のケアを提供する能力
- 患者(特に虚弱高齢者)を総合的に評価し、包括的・継続的に対応する能力。
- チームケアを実践し、複雑な問題・倫理的な問題を解決していく能力。
- 基本的臨床能力に関して学生・研修医の教育を実践する能力。
- 予防・健康増進の重要性を認識し、地域やコミュニティーをケアする能力。

## 研修施設・所属

研修期間 3 年間を通して下記 1.2.のどちらかの教育診療所の所属となる

- 1.小豆沢病院附属高島平診療所
- 2.練馬第一診療所

[ 他研修協力施設 ]

小豆沢病院

(内科混合病棟・外科病棟・亜急性期病棟・回復期リハビリ病棟・小児科外来・他科外来)

立川相互病院(小児科入院・外来)

小豆沢病院附属本蓮沼診療所・桐ヶ丘団地診療所・坂下診療所・下赤塚診療所・練馬第二診療所

## ローテーションの概要 [週 10 単位として]

- 1 年目(卒 3)：下医の時代；病をしっかり診る

所属診療所外来スタート・・・1-2 単位(うち 1 単位は 3 年間通して他科研修中も継続)

小豆沢病院 2 階 内科急性期病棟 + 小豆沢病院 一般内科外来スタート(6 ヶ月)

・・・common disease の大半に独自で対処できる

立川相互病院 小児科病棟 (1 ヶ月) … 小児に特有の問題・疾患  
 小豆沢病院 小児科外来 (2 ヶ月) … 乳児健診・予防接種も  
 小豆沢病院 2 階 外科病棟 (2 か月) … 周術期管理・緩和ケア  
 小豆沢病院 5 階 回復期リハビリ病棟、小豆沢病院救急外来 (1 ヶ月)  
 … 整形外科疾患へのアプ ローチ\*・リハビリテーション  
 … 1-2 次救急対応・高次医療機関へのコンサルテーション

• 2 年目(卒 4)：中医の時代；人をしっかり診る

所属診療所外来継続・往診スタート… 単位数 4 単位(外来 2・往診 1・振り返り 1)

年間を通して Harfday back 方式：診療所 4 単位+小豆沢病院 3 階 亜急性期病棟 4-6 単位  
 「亜急性期病棟からの退院患者をそのまま在宅で受ける」  
 … 在宅医療の導入.透析管理.高齢者総合評価(CGA).チームアプ ローチ  
 「往診患者の入院も主治医のままで(指導医と一緒に受け持つ)」  
 … 継続医療の視点 \*外来患者の入院は受け持たない

病院他科外来(イレギュ' として)0-2 単位… 人工透析内科・皮膚科・整形外科など

• 3 年目(卒 5)：上医の時代；地域をしっかり診る

所属診療所の副所長として FIX … 常勤スタッフとしての役割  
 外来 4・往診 2・振り返り 1  
 … 他 3 単位は 他診療所外来/技術研修/他科外来研修など  
 在宅カンファレンスの準備・運営  
 研修医指導  
 家庭医らしい健診と説明  
 健康講座・友の会活動… 地域をケアする視点  
 管理会議にも参加… チーム運営・QI 活動

研修先/ローテーション先の一例

年目 「下医」	内科急性期病棟・一般内科外来	小児科 病棟	小児科外来	外科病棟	回復リハ 病棟・ 救急外来
	所属診療所 (1~2 単位)				
2 年目 「中医」	所属診療所 (4 単位)				
	亜急性期病棟 (4~6 単位)				
3 年目 「上医」	所属診療所				

\*2・3 年目は原則的に上記の通り。所属診療所の外来単位数は 1 年目から研修修了まで継続される。

## 評価方法

ポートフォリオの作成・提出を義務付け、それに基づいた評価を原則とする

週 1 回 指導医との振り返り(各研修の場において)

月 1 回 所属診療所での研修委員会 ロテーション毎の研修達成度も評価

6 ヶ月に 1 回 他職種参加の合同研修委員会 360 度評価

1 年に 1 回 管理研修委員会にて各年度の研修達成度の評価、3 年間終了時はその修了認定

## プログラムの質の管理・向上

指導医は学会関連の指導医研修会等へ参加する。

指導体制・指導内容・研修環境・処遇・症例数など、研修医からアンケート形式の評価を受ける。

年 1 回の管理研修委員会にてプログラムの質に関する検討と改善策を講じる。

## 指導医

**病院**：井上修一医師(プログラム責任者・1 年目内科)

藤城礼医師(1 年目外科・緩和ケア)

篠田格医師(1 年目小児科)

大久保節士郎医師(1 年目小児科：立川相互病院)

中村直也医師(1 年目救急医学)

芹沢憲一医師(選択整形外科)

中村直也(選択人工透析内科)

**診療所**：高島平診療所：山崎暁・練馬第一診療所：青柳守男

## 高島平診療所における医療活動の規模と傾向・・・研修診療所の紹介

東京民医連診療所医療活動報告(09年度上半期\*)より

- 患者件数(月平均) 993件 対06年：92.1%
- 延べ患者数 1297回 対06年：85.5%
- 在宅件数 88件 対06年：186.3%
- 在宅延べ回数 146回 対06年：165.2%
- 生活保護件数 61件(全体比：6.1%) 対06年：85.5%
- 健保本人率(09年度第一四半期) 14.7% (東京内 24位)

貧困層が他地域と比べ多いわけではなく、現役の人もそれなりに受診する診療所

09年2月末に小児科(東大パート：3単位)を廃止したため初診件数は月80件 60件ぐらい

在宅医療(往診)の現状

- 往診件数は増えており、特に専門病院からのがん末期患者の紹介が多い。在宅末期がん患者の1/3が自宅、1/2が小豆沢病院、残りが紹介元病院で亡くなっている。
- 内科ターミナルの判断は難しく、小豆沢病院で長期療養後に亡くなるパターンが多いが、最近では認知症の末期を自宅で看取るケースが増えてきた。
- **在宅看取り件数**：在宅診療所に係る報告書(7/1-翌6/30)より  
06年7/1-07年6/30：**4件** 07年7/1-08年6/30：**7件** 08年7/1-09年6/30：**12件**